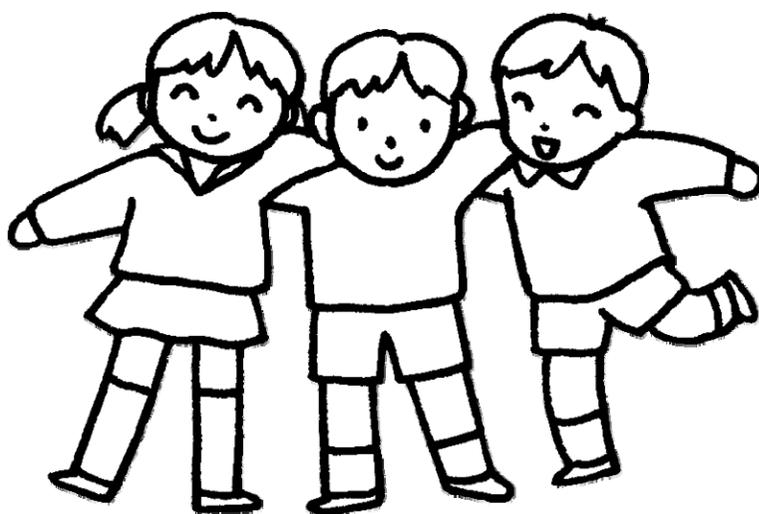


障害児学童クラブおもちゃばこ

2007年 活動報告



おもちゃばこ放課後クラブ



第1． 3水曜日 絵画工作教室

開催回数 15回

参加人数 延べ168名

第2． 4水曜日 料理教室

開催回数 14回

参加人数 延べ182名

「絵画工作教室」

プログラム例；「水彩画に挑戦しよう」「染め物に挑戦しよう」

「凧作り」「秋の花を絵に描こう」「クリスマスポッ

プアップカード作り」等

作り方を写真や文字でわかりやすく解説し、説明の際も実物を目の前で一緒に作る、行程を拡大して見やすくした教材を用意するなど、言葉での説明が解りにくい自閉児などにも目で見てもわかりやすい工夫した。作った物は、それぞれみんなの前で発表し合いお互いの作品を見合ったり、感想を言ったり、また、凧作り際には実際に近くの公園まで凧揚げに行き楽しむなどして、ただ作るだけでなく絵や工作を通して、友達との交流も出来た。

「料理教室」

プログラム例；「ソーセージパン作り」「餃子を作ろう」「シュー

クリーム作り」「手作り肉まんに挑戦」「手打ちうどん

を作ってみよう」など

出来るだけ子どもに分かりやすく、行程も簡素化したり、パンや肉まんの生地など発酵の必要なものは、その待ち時間に別の行程を用意するなど、レシピや作り方の順序を工夫した。レシピは写真を

用意したり、文字で書いたものを用意し、先の行程も解るようなものを準備した。

シュークリームの生地が膨らむ様子などは、まるで理科の実験のようで、オーブンの中でどんどん膨らんでいく様子にどの子も釘付けだった。手打ちうどんも「粉」と「水」だけの材料が見慣れた「うどん」になっていくのがとても不思議なようだった。

今まで食べなかったものも、自分で作ったことで初めて口にしたり、という子どももいて、「食育」という意味でも、とても大切な活動になったと思う。



土曜教室

月 2 回（不定期） 運動クラブ

夏期休暇中は「水泳教室」を実施、他、月 1 回マラソン教室、リトミック教室などを開催

月 1 回（不定期） 郊外活動（ハイキング）

「根来山ハイキング」「紀伊風土記の丘散策」など

途中の景色を絵に描いたり、写真を撮ったり、また、散策中に集めた木の葉やドングリなどで工作を楽しんだりなど、ただ歩くだけにはとどまらないよう工夫した。途中、交通ルールや、散策の際のルールなどは写真やカードを使って説明するなどし、社会でのマナーも身につけながら活動を楽しむことが出来た。

その他

長期休暇中

電車クラブ

「電車」という公共の乗り物に乗り、社会勉強に出掛けた。

切符を買うこと、電車の中では静かにすること、ホームを走らないことなど。日頃の生活では身に付かない、たくさんのルールを学習することが出来た。また、活動には大学生のボランティアが多数参加し、1対1で子どもたちをサポートしてくれた。子どもたちにとっても、普段係わることのない「少し年上の先輩」と接することが出来、良い経験になった。



□保護者の感想□

「放課後支援活動について」

放課後支援活動を利用させてもらって特に助かるのは、水曜日の活動です。水曜日は他の曜日より一時間早く学校が終わるため、放課後の過ごし方について頭を悩ませます。でも、この水曜日の活動である工作や料理教室に参加し、充実した放課後を過ごさせてもらっています。

うちの息子は、元々何かを作ったり、何かに集中したりするということが苦手だと思っていました。ところが、お友達と一緒になら「こんなことができる!」「こんなに集中できる!」ということを見ることができましたし、何よりも本人が生き生きとできる居場所があるということはすばらしいことだと思います。健常児なら放課後、塾へ行ったり、習い事をしたり、友達と遊んだりというような、学校以外の生活があるように、障害児にも同様の生活は、成長していく過程の中でとても重要なことだと思います。

これからも、こういう場がどんどん広がり、ずっと続けていけることを願っています。

「水泳教室に参加して」

中学二年生の息子は、時間に敏感で予定ばかりが気になり、いつも時計とにらめっこ。なかなか「今」を楽しめません。家ではほとんど趣味もなく余暇を持て余しています。

そんな状態ですから、長期休暇は本人にとっても私にとっても、長くてとてもつらい毎日になります。とりわけ、暑さの厳しい夏休みは公園や散歩に出かけるのも大変です。小さかった頃はよく近くのプールに連れて行ったものですが、既に父を超える大柄の息子に付き添うことが年々困難になってきています。

我が家の余暇活動のお助け隊であるおもちゃばこさんには、何かとお世話になっていますが、夏の水泳教室は本当にありがたく思っています。大

好きなプールに入り思いっきり体を動かすことでストレスから開放され、異年齢のお友達や指導員さん・学生ボランティアさんと楽しく交流させていただくことで、集団の一員として「楽しむこと、我慢して取り組むこと」を体験させていただいているようです。家族だけではなかなか味合うことができません。将来に向けて、仲間作りや社会生活におけるルールも学んでもらいたいと思っています。

「放課後強クラブに参加して」

放課後クラブに参加させていただいて半年経ちます。家のカレンダーには、水曜日の欄に娘の下手な字で「おもちゃばこへいくひ」と書きこまれています。水曜日の朝は、通学バスを待つ間、「今日、おもちゃばこよなあ」とうれしそうに聞きにきます。ほとんど皆勤に近いくらい参加させて頂きました。

娘は、参加者たちと一緒に活動できるのがとても嬉しそうです。時々、小さなお手紙をもらったりして、学校ではない交流に心ときめかせているようです。

クラブの内容は、大まかに、お料理と物作りです。その中でもお料理は、特に好きな活動です。この間、近所の子たちとホットケーキを作ったのですが、同じくらいの年の子達より、娘の方が手順が上手いのです。健常児はお勉強したり、習い事をしたりしているけれど、お料理となると経験が少ないようです。何度となくお料理をする機会があったおかげで、自然に身についたんだなあと嬉しく思いました。

障害児は放課後といえば、家にいるしか仕方がない状態が多いです。放課後クラブでは、お友達と一緒に何かをする…という時間がもてます。一緒に何かをする、ということはとても大事なことだと思います。

「料理教室に参加して」

中学二年の娘が、学校以外で活動する場所が出来、活動の内容も工作や料理で、本人が好きなこともなものもあり、水曜日の下校途中で、「今日は？おもちゃばこ行くの？」と、どちらかというところの多い子が、自分から聞き、参加する事が楽しかったようです。

特に料理の日、おやつ時に自分で作ったものを食べられるのがうれしいようで、パクパクとよく食べ、時々私に分けてくれたりもしました。佳純は豆腐を入れて作ったパンが気に入ったと言っていました。

工作の方は興味のある作品の時は集中して作っていましたが、あまり興味のないものは私にさせて、自分は好きな本を見るなど別の事をして知らん顔でした。作品の中では、ビンに紙粘土を貼ってビー玉などを付けた物が気に入っていたようです。

家ではなかなか敬遠してしまい、わざわざ物作りをしようとはならないので、おもちゃばこで料理や工作をする機会が出来たのは嬉しいことです。そしてパン作りなど、短時間で意外と簡単に作れたりと、参考になることが多くありました。

スタッフの皆さんも準備など、本当にごくろうさまです。そしてありがとうございました。

これからも、少しでも長く、多く参加できればと思います。